

Welfare

[ウェルフェア]

「空飛ぶ車いす」 2012年活動レポート

2012

49

CONTENTS

「空飛ぶ車いす」2012年活動レポート

- P2 自然と涙がこみ上げてきました。
—ドラえもんプロジェクト IN THAILANDに参加して—
神奈川工科大学
- P4 現地体験を、多くの人に語りかけてほしい。
—女川町復興日記—
女川町社会福祉協議会 女川町復興支援センター
- くっきり! 福祉の未来形 ~日社済助成事業報告集
- P6 レビー小体認知症の理解とケア講演会
北海道認知症グループホーム協会道東ブロック
- P8 マルチメディアデイジー図書講演会
社会福祉法人 光生会 都城子ども療育センターひかり園
- P10 ストレスマネジメント研修会
社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

アジアに届け!! 空飛ぶ車いす

—アジアや東日本大震災被災地で、活躍する若者たちの活動—

使われなくなった中古車いすを工業高校生が修理して、海外の人たちにプレゼントする活動を続けている「空飛ぶ車いす学校グループ(24都道府県68校)」。2012年の活動から、2つのレポートをお届けします。ドラえもんプロジェクト IN THAILANDに参加した学生と、東日本大震災の被災地・女川町で復興支援に当たっている社協担当者からの寄稿です。

自然と涙がこみ上げてきました。

—ドラえもんプロジェクト IN THAILANDに参加して—



寺田亮一副理事長(日社済)からダラワン理事長(サハタイ財団)に車いすが手渡された。

「空飛ぶ車いす」と出会い、参加を決意

私が空飛ぶ車いすを知ったのは、学内のサークル「車いす修理屋(KWR)」による「車いすの修理会及び東北の人々に支援物資を送る企画(東日本大震災直後の4月に実施)でした。

以来、私が所属する学内広報誌編集部に定期的に活動報告をもらうようになり、数ある団体の中でも一目置かれるような存在になっていました。そして今回、彼らが夏休みにタイを訪問すると聞き、思い切って一緒に参加したのです。

「アジアに届け! 空飛ぶ車いすドラえもんプロジェクト IN THAILAND」は、日本各地の工業高校生が修理した車いすを、タイへコンテナ輸送し、

神奈川県立工業高校3年生 小林 まみ

現地で再度点検を行った上で利用者の方々へ寄贈する活動です。今年には日本からKWRの他、福岡県立浮羽工業高校、新潟医療福祉大学FWS、韓国から8人、台湾から3人が参加しました。

言葉の壁を乗り越え、力を合わせて取り組む

そして、日本、韓国、台湾、タイの高校生たちを中心に修理が行われました。国も話す言葉も違うため、コミュニケーションは、簡単ではありません。ましてや、車いすの修理を教えていかなくてはいけません。

しかし国は違えども、このプロジェクトに参加した人たちは皆、同じ目的を持つ人々です。身振





フットレスト調整する浮羽工業高校生(チャイナット病院)



車いすを受け取ったタイの人々(チャイナット病院)



修理に初挑戦のタイの高校生



体に合う車いすを探す子ども

調整作業で生まれる感動の笑顔

私がいちばん衝撃を受けたのは、調整作業で

り手振りで、伝えたいことの意味は想像できません。また、修理に必要な工具の画像と各国の言葉を印刷したボードを使って意思疎通をはかるなど、新しい方法もあることがわかりました。

修理初日は思うように作業が進まなかったのですが、ミーティングを行うと、次の日には約3倍の車いすを修理することができました。これは私たち若者が持つ不思議なパワーかもしれないですね。新しいことにチャレンジをし、ひとつのことに集中するととんでもない力を発揮するのです。こんなことが再発見できるだけでも、若い学生たちがこのプロジェクトに参加することは重要でしょう。

した。私自身、幼いころに何度か病院で車いすに乗った経験はありましたが、一言で「車いす」と言っても、様々な形状のものがあることに初めて気が付きました。利用者に適した車いすを見つけ、その人の体型に合うようにフットレストの高さ調整や、必要ならば、ベルトやクッションを取り付け、角度調整を行わないといけないのです。これをやらないと、快適に利用してもらえない車いすにはなりません。

この調整作業は、車いすを利用する本人と話し合いながら実施します。大変な作業ですが、調整が終了すれば、互いに自然と笑顔になります。この瞬間を体験し、私は自然と涙がこみ上げてきました。この体験こそが、空飛ぶ車いすのプロジェクトでもっとも重要だったと言えるかもしれません。単純に「素晴らしい活動だ」と記事を書くだけでは、きっと彼らが心から喜ぶ姿を十分理解することは

できなかつたでしょう。

日本と東南アジアをつなげる懸け橋に

日本ではまだ使えるにも関わらず、修理に手間がかかることから廃棄処分になってしまいう車いすがたくさんあります。その一方で、車いすを必要としながらも、手に入らない人々が多いタイなどの東南アジア諸国。この矛盾を克服し両者をつなげる懸け橋に、私たちがなれるのならこんなに素敵なお仕事はありません。

一人ひとりの学生や若者ができることは微力ですが、数人が集まることによって、解決できる可能性は大いにあります。実感しました。

現地体験を、多くの人に語りかけてほしい。

— 女川町復興日記 —

女川町社会福祉協議会

女川町復興支援センター

武石 久美子
安部 未里

車いす修理高校生とのふれあい

「最近の被災地の状況を知らないまま女川町を訪れたのですが、もうそこはプレハブのスーパーが立ち並ぶなど、人々は着実に復興に向かっていくようでした。その力強さには、本当に心打たれました」

これは8月末に特養老人ホームおながわ（木村彦施設長）で、車いすを修理した東京の大



利用者の側でタイヤ交換などを行った

森学園高校3年佐藤克樹君の感想です。もともと同校はボランティア精神と「ものづくり」を学ぶために「車いす修理」を正規授業に組み入れています。それを実際の復興支援にも活かそうということ、今回の活動になったのです。

当日は、生徒さんたちが手際よくタイヤ交換作業をすすめ、また1台ずつ丁寧に磨く姿を傍らで見ていた利用者の皆さんは、さっそく車いすに乗り「すごく良くなりました」と笑顔で話していました。

また同ホーム職員の板宮千尋さんは「これまでは、整備に手が回らなかったのがありがたかった。それよりなによりなことに利用者や学生さんが直接触れあえたことが良かった」と話していました。「来年また来ます」と約束した生徒さんも達成感に満ちた表情でした。

被災地“視察”に揺れる町民

最近、被災地への「視察」が目につきます。車いす修理の高校生たちも「とにかく現状を知ろう」と、バスで町を1周しました。地域医療センターの高台から見えた港と横倒しになった銀行ビルなどは、新聞・TVでよく知られ、皮肉なことに「視察」スポット化しています。

津波で奥さんを亡くされた浅野正雄さんは、

社協の呼びかけで「被災地案内ボランティア」に登録、今回初めて現地を案内してくれました。メモを手にはじめは明るい声で説明してくれたのですが、山と積まれたガレキ仕分場を通ったときは、さすがに「まさかここまで波が来るとは……。ペルー沖地震での津波経験のあった妻やお年寄りは、逃げなかったのです……」と声を詰まらせます。浅野さんの自宅はこの仕分場前だったのです。震災から1年半が過ぎて世間の関心は薄まりかけていますが、浅野さんたちにとっては「まだ1年半」であることを実感した場面でした。



木村施設長から被災時の話しを聞く生徒たち

震災を風化させないための体験を継ぐことは必要ですが、自分の言葉で話せる人はそう多くありません。被災地を「視察」としても受け止めるのが良いのか悪いのか、町民たちの心は複雑な様子です。

3度目の離散で 薄れるつながり

倒壊建物やガレキはほとんどが仮仕分け場に集められ、港には漁船が出入するようになりました。製氷工場も再稼動するなど、見た目には心理的負担は軽減されたようですが、反面「何もなくなった」との喪失感だけが残っているのが今の女川町の現状です。

避難所から仮設住宅へ移って1年半。不便な



4階建ての七十七銀行屋上に避難したが12名が犠牲となった。横倒しのビル前の花壇には桔梗が植えられ「ペットボトルの水をあげてください」と記されている。

仮設生活も「日常」になりつつあり、各自治会は新たな地域作りに取り組み一方で、復興住宅の建設も始まりました。復興住宅への移行が進めば仮設住宅には空き室が増え、残された住民は「焦り」や「取り残され感」を持つことでしょう。復興が待てず町外に新しい生活基盤を求める若い世代もいれば、郷土愛を再確認して女川町に残る高齢者もいるなど、町には3度目の離合集散が訪れようとしています。

忘れないでほしい

女川町を訪れてくれて車いすの修理までしてくれた高校生には、ぜひ被災地で実感したことをきちんと友達や家族に伝えてほしいと思います。マスメディアや報道だけでなく身近な人からの近況こそが、「他人事ではない」と強く伝えるはず。それは犠牲となった方々への鎮魂にも繋がります。

誰もがができる復興支援はまず「忘れないこと」ではないでしょうか。今後とも再生に向け、困難を乗り越えようとしている住民に寄り沿って、私たちのことを見守り続けてほしいと思います。そしてボランティア活動に参加してくれる高校生の方皆さん、今後よろしくお願ひします。あなたたちの活動は、被災地の多くの人たちに安心と勇気を与えてくれます。心と心がつながる活動を、これからも続けていきたいですね。

● ● ●
日社済ではこれからも空飛ぶ車いす学校グループがおこなう取り組みを支援していきます。工業高校生たちの精力的な活動内容に、ぜひご注目ください。



山のように積み上げられたガレキの区分作業はまだまだ続く



高台にある高校校庭にオープンしている仮設マーケット

●事業成果報告集

レビー小体認知症の理解とケア講演会

北海道認知症グループホーム協会道東ブロック

北海道釧路市入江町8番20号

ホーム長 斉藤 裕

本会は、平成16年に釧路・根室グループホーム協会として、地域のグループホームの同業者の研修、交流、ケアの質の向上を目的として発足し、平成21年に北海道認知症グループホーム協会の道東ブロックとして再発足いたしました。発足以来釧路を中心に、年間10回ほど質の向上を高めるための研修を開催しており、今回は『レビー小体認知症の理解とケア』講演会を実施いたしました。

レビー小体認知症の発見者として国際的に知られている医師による講演

現在アルツハイマー型認知症と診断されている方の中に、多くのレビー小体認知症の方がいると思われる。グループホームの職員がこ

の研修を通して、疾患別の介護を行えるようになり、利用者のより良い生活と家族への安心が提供できるようになることを目的として、レビー小体認知症の発見者として国際的に知られている小阪憲司医師と、レビー小体認知症家族の会の副会長であり、北海道認知症グループホーム協会の前会長である武田純子氏を迎えて、レビー小体認知症の臨床と介護というテーマで講演して頂きました。

参加者はグループホーム関係者が約100名、他福祉施設関係者が約50名、及び十勝ブロックの方の参加もありましたが、市役所や包括支援センターの方々も参加して頂き、とても励みになりました。特に認知症専門の医師が参加してくれ、質疑応答の時間で発言して頂き、釧路にもこのような医師がいてくれる存在を知りとてもうれしく思いました。

レビー小体認知症の正しい理解と適切なケア方法を学べた

レビー小体認知症は脳血管型認知症やアルツハイマー型認知症に比べて、発見されたのが新しく、正確で詳しい知識を持っている方は非常に限られておりました。この講演を通して、レビー小体認知症の正しい理解と適切なケア方法を皆さんが学べた事が最大の成果だと思います。

参加者がびっくりしたのは、パーキンソン病とレビー小体認知症は兄弟みたいな、同種類の病気だという事でした。ある有名な認知症専門の医師の講演で、レビー小体認知症には必ずパーキンソン症状が伴うという事は聞いた事があります。しかし小阪先生によると、レビー



小体が主に大脳皮質に広く現れるとレビー小体型認知症であり、レビー小体が主に脳幹に現れるとパーキンソン病になるとの事でした。目から鱗とはこのことでした。実際にグループホームの多くの利用者にパーキンソン症状が現れて

おり、かなりの数の利用者がレビー小体型だろうと思われます。また驚いたのは、初期には必ずしも、認知症が伴わない場合も多いということです。パーキンソン症状の他に、特長としては、うつ症状、幻視、認知障害、認知の変動、自立神経症状、薬に対する過敏性、レム睡眠行動障害が有ります。各グループホームの職員は、あの方もレビー小体型認知症かもしれない、という声があちこちで聞こえました。

びっくりしたり驚いたりして再認識をした後の講演

こうして正しい知識を得た後に、武田氏の講演が始まりました。武田氏は、自分の親もレビー小体型認知症であり、自分のホーム（5ユニットのグループホーム）でも、後で考えれば30人近くの利用者がレビー小体型認知症であろうと言われました。それだけの人数を身近で介護され、実に事例が豊富でした。一番なるほどと思った事は、各ホームもアルツハイマーの利用者が一番多いのですが、アルツハイマーの利用者と同じ対応をしていたら、大変なことになる事でした。アルツハイマーの方は記憶障害が顕著に現れます。その場で、介護員が安心してもらう為に言った言葉も、その後忘れることはありません。しかしレビー小体型の方は確実に覚えていて、例えばその言葉が不適切だった場合は、そ

の介護員を無視するようになり、不穏になることもあるそうです。また幻視は本人にとって本当に見えているので、簡単に否定しない方がいいとのこと。 「〇〇さんには見えるのですね、私は見えないの、どこにいるの？」と聞いたりして、その部分を何かで拭いたりすると消えるようなことが多く、そのうちに自分しか見えないことに気が付いたり、スタッフが対応することによって幻視が消えることもあり、スタッフに見えるものを追い払ってくれるよう頼むようになる事もあるそうです。又レビー小体型の方には抗精神病薬が過剰に反応するので、薬には特に注意する必要があるとの事を学びました。

更なる認知症ケアの貢献をめざして

参加者アンケートでは、レビー小体型認知症が理解できた、講師自身の介護現場での具体的な事例により更にわかりやすく、又受講したい、病気を理解したこと、自施設の利用者を別の視点から観察し、医師に相談するの必要を感じた等の意見がありました。この研修を受けた職員は、確実にレビー小体型の利用者に対して今までと違った対応が出来るようになると確信しています。

● 事業成果報告集

マルチメディアアデイジー図書講演会

社会福祉法人 光生会 都城子ども療育センターひかり園

宮崎県都城市小松原町1-1-41
本事業担当責任者 梅田 ひろみ

社会福祉法人光生会は、昭和55年4月に心身障害児のための認可外施設「ひかり園」として、障害の種別程度を問わずいつでもどこからでも通える母子通園施設としてスタートしました。平成5年に社会福祉法人（第二種）の認可を得て、宮崎県から重症心身障害児者通園事業（B型）を委託されるなど、児童デイサービス事業所とともに地域の子育てを支援してきました。今年度からは制度改正により、児童発達支援事業、生活介護事業に移行するとともに、保育所等訪問支援事業、特定・障害児相談支援事業を開始しました。

このたび本会は、「私の本、私が読める教科書―読みに困難のある子どもへの支援―」を主題に講演会を実施いたしました。

公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会の後援・協力を得て

平成20年に「障害のある児童及び生徒のための教科用特定図書等の普及の促進等に関する法律」教科書バリアフリー法が施行されたのを機に、日本障害者リハビリテーション協会からマルチメディアアデイジー教科書が提供されるようになりました。しかし、宮崎県ではまだまだ普及していません。当園を利用する子どもたちも就学時には有効になることが考えられ、まず保護者や支援者が活用事例を知り、実物に触れて、就学後への見通しを持てるよう、また地域の先生方に、子ども達が持つ読み書きの困り感について知っていただき、その支援について共に考える場を作りたいと、講演会を開催しました。

講師は、ディスレクシア当事者としてカミングアウトされている岐阜市立岐阜特別支援学校の神山忠先生、デイジーを実際に使っておられるお子さんの保護者、通級学級でデイジー教科書を使っておられる小学校の先生、そしてデイジーコンソーシアム前会長の河村宏氏、日本障

害者リハビリテーション協会の野村美佐子氏、長田江里氏にお願いして、マルチメディアアデイジーの展示とデモンストレーションをセットにした講演会にしました。

参加者の方々の内訳と反応

参加者は、都城市内のほか宮崎市、小林市等近隣市町の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の先生方が35名、そのほか保育士や福祉関係者、研究者等、当日のボランティアスタッフも含め総勢103名でした。ほとんどがマルチメディアアデイジーについて、またディスレクシアの困り感について初めて知ったという方でした。現物の展示とデモンストレーションも好評で、早速利用を申し込まれた方も多かったです。以下、参加者のアンケートの一部を紹介します。
・デイジーについてすごく勉強になりました



た。特別支援の先生や保護者の実体験のお話はとても貴重で、言葉（デイジーという）は知っていましたが、実際のを知らなかった私にとって、すごく分かりやすかったです。お話にもありましたが、なかなか気づかれずに困っている発達障害の子どもたちに、勉強の楽しさ、また本人や保護者の不安の軽減につなげられるよう、私もデイジーについて学び、情報を伝えていければと思いました。

・学習障害は見え方もそれぞれ違うので、その子にあった支援が必要だとわかりました。支

援を受けることで自信もついて将来の可能性もどんどん広がると思います。デイジー図書がすべての学習障害の子たちに使われるようになればいいなと思います。

・初めて参加させていただきました。開会から閉会まで感動の時間でした。講師の先生方、事例発表の方々のお話を聞いて、教育現場の状況を見直していくことを心の中で決意しました。

・「先生の言葉ひとつで子どもを傷つけることがある」この神山先生の体験を一人でも多くの小中学校の先生方に伝えていきたいと思えます。

・最近、知的段階（発達検査の結果）と学習態度・学力とのギャップが大きい子が気になっていました。その子たちの困り感をきちんと理解し、みんなと一緒に学習できるように、工夫していきたいと思いました。有意義でした。ありがとうございます。

・保護者の方が家庭で使われたケースと、学校で先生が使われたケースとあって、とても分かりやすかったです。ありがとうございます。アンケートの一部ですが、デイジーについての再認識と発展が実感として伝わった次第です。

講演後の成果の広報と今後の展開

講演会が終了したばかりで、まだその成果の公表の具体化はできていません。しかし、講演会の開催案内そのものに、ディスレクシアの子

ども達の困り感と、その支援ツールとしてのマルチメディアデイジーの存在を書きました。そういう意味で、開催案内チラシも講演内容の広報の役割を果たしたものだと思われれます。開催案内チラシは都城市内の小中学校、高等学校、特別支援学校等全てに配布し、ひかり園の在園、卒園児や保育関係団体等で500枚ほどは配布しました。卒園児や学校等には郵送での案内をし、また療育や教員向けイベントで配布しました。

現実には、当日は都合が悪くて参加できないが、詳しく教えて欲しいという声を頂いています。都城市において初めて取り組んだテーマであり、今後の展開を具体化していく中で、今回の講演会の成果をさらに広く公表し、より多くの関係者に情報を伝えていきたいと考えております。

すでに複数の学校の先生から日本障害者リハビリテーション協会にマルチメディアデイジー教科書・図書の問い合わせが行っていると報告を受けています。必要とする子供の身近なところにこの情報が伝わり、子ども達の支援につながっていくことを願ってやみません。参加した卒園児の保護者から「わが子に使えるかもしれない」との声も寄せられました。当法人においても、パソコン等ハード面の手当も検討しつつ、卒園児、これから就学する子供の支援につないでいくケースも生まれそうです。

●福祉従事者セミナー

ストレスマネジメント研修会

社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

福祉人材研修センター 主事 森園 瑞香

毎年本会が実施している「研修テーマ」のアンケートでもリクエスト上位の「ストレスマネジメント」の研修会を、8月24日長崎市内に実施いたしました。

福祉職は性質上、肉体労働と比して「精神労働」と表現されるほど、対利用者、対家族との信頼関係保持に心を駆使するため、精神的疲労度が高い職種と言われています。現場職員が福祉のプロとして専門性を発揮するには、その福祉の専門知識・技術だけではなく、いかに適切な職場環境、組織的バックアップ体制をつくれるかが重要な点もありません。しかし実際は、現在の福祉分野をとりまく職場環境は厳しく、日々の多忙な業務、複雑な勤務体系、キャリアの不均等などの多くのジレンマの中で、現場職員への負担は益々増大傾向にあるという指摘も少なくありません。

各福祉施設・事業所の方々が本研修を受講し、現場の組織力をたかめていただくことで、よりよい職場環境の実現につながると考え、開催す

ることとしました。

ねらい・主なプログラム

職員の「コミュニケーション力」向上が、より良い職場風土作りや、メンタルヘルス環境改善にも役立つことを理解しやすい構成としました。

1、「ストレス」とは何か？ 自分とストレスの関係を知る。

ストレスチェック／ストレス耐性度チェック他【演習】

2、福祉職特有のストレスの原因／ストレスを溜めないために

“情緒的労働”比率の高い福祉職特有のストレス原因とは？

3、職場のメンタルヘルスケア実践のポイント

不調者を出さないための職場作り、復職者との関わり方

4、職場ですぐに実践できる効果的なストレス対処方法

スタッピングタッチ／自立訓練法／呼吸法

【演習】

予想される成果

「ストレスマネジメント研修会」では、職員が「燃え尽き」や「メンタル不全」によって組織力が低下する現状を踏まえ、ストレスの原因やメカニズムを理解し、職員の「コミュニケーション力」向上を通して、より良い職場風土作りやメンタルヘルス環境改善に活用いただけると考えます。本会では、現在の福祉現場の喫緊の課題であると同時に、これらの理解を深めることで、組織力の強化に直結し、ひいてはサービス提供の基盤づくりにつながる重要なテーマと位置づけ、今後とも継続的に取り組んでいきたいと思っております。

日社済【福祉の共済】を担当している ジブラルタ生命の担当者をご紹介します

社会福祉施設を担当したきっかけは？

自分がお世話になった方々のお役に立ちたいと感じたのがきっかけです。

生命保険の仕事にたずさわることになり、自分が恩返しできる方々はどなただろうと考えた時に、真っ先に頭に浮かんだのが社会福祉施設なのです。

実は小学生の頃にケガで二年間も入院して、現在もリハビリ施設に治療で通っています。

ランドセルを背負っていた頃から自分のことを知っている方々に、ご案内するのは躊躇もありましたが、日社済『福祉の共済』を唯一ご案内できる生命保険会社として、お役に立てることがあるはずだと、自信を持ってご紹介させていただきました。

毎日訪問することに こだわっている理由は？

皆様の「もしも」や「疑問」に役立つ担当であることに使命感を持っているからです。施設訪問を始めた頃は、あまりにも皆様がお忙しいので、お邪魔にならないようにすることばかり考えてしまい、結局何もお役に立てていないことを日々反省していました。責任のあるお仕事をされている皆様ですから、決してお邪魔にならないようにと意識していましたが、同時にご多忙の中、立ち止まって自分のことを考える時間がなかなかとれない皆様だからこそ、万が一の場合や老後、年金等ご心配なこともあるので



いつもお世話になっている、ご担当者様と施設正面玄関にて
(右)かがわ総合リハビリテーション事業団 森川 次長 兼 総務課長
(左)日社済【福祉の共済】提携会社 ジブラルタ生命保険株式会社
高松第三支部 中村ライフプラン・コンサルタント

はないかと強く感じました。ただし皆様のご都合もあるので、こちらからどんどんお声かけするのではなく、いつでも相談できる担当者として貢献できるよう、毎日お昼と夕方の決まった時間にご訪問させていただくことで、まず自分のことを覚えてもらうことを心がけました。今では「中村さん！」と皆様からお声をかけていただくようになり、担当者として非常に嬉しく感じています。

今後の抱負は？

担当者としてひとりでも多くの方のお役に立つことです。例えば今年は生命保険料控除制度の改正があり、何が変わったのか戸惑う点もあるかもしれませんが、是非皆様の相談窓口として貢献したく感じています。



“As safe as the Rock”

～ジブラルタ・ロックのように安心～

ジブラルタ海峡に位置する長さ 4.8km、高さ 400m にもおよぶ巨大な岩山[®]ジブラルタ・ロックが社名の由来です。

親会社ブルデンシャル・ファイナンシャルのシンボルである[®]ジブラルタ・ロックは、時を経ても変わることのない強さ、安定性、専門性、そして革新性を象徴しています。

コールセンター

0120-37-2269

※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

ホームページ

ホームページ <http://www.gib-life.co.jp>



Gibraltar
ジブラルタ生命

働きながら
国家資格に挑戦する

チャレンジ

あなたを応援します!!



本試験と同様形式です。(マークシート付)

「チャレンジ!! 介護福祉士」国家試験 模擬問題セット

3回分

120問と正答がわかりやすい解説と一緒に掲載されています。

定価3,500円(送料込)

マークシートで自己採点や繰り返し学習に最適です。〈照会先〉「チャレンジ!! 介護福祉士」事務局 (公財)日本社会福祉弘済会 TEL.03-3846-2172

社会福祉法人 岩手県社会福祉協議会
社会福祉法人 山梨県社会福祉協議会

社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

社会福祉法人 福島県社会福祉協議会
社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会

公益財団法人 日本社会福祉弘済会

<http://www.nisshasai.jp>